

国府台への出張後、
公園のベンチに腰掛け、
自動販売機で買った
缶コーヒーを飲んでみると、
「時間があるのなら、皆を連れて動物園に行ったら……」
と、亡母の声に似た響きが……。
誰かいるのか？と、辺りを見渡すものの、
それらしき人影は見当たらず……。
が、ベンチを立とうとすると、
間違いなく亡母の、
間違いなく亡母の、
「動物園に寄って行ったら」との声が……。
「空耳？まさか」と思いながら、
歩き始めると、
開園して間もない、
昭和末期の市川市動物園の情景が、
浮んできた。
亡母や息子、娘たちと楽しく過ごした
遠い日の思い出が、
克明に蘇ってくる。
山国には無い、
広々とした平野の広がりと
果てしない海が、何とも眩しい。